

局長挨拶



平素より情報通信行政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
 7月14日付けで北海道総合通信局長に着任し、早1ヶ月が経ちました。
 北海道の赴任は初めてですが、道内各地を訪問する中で、全国一律にとらわれず、北海道ならではの長を生かす視点が必要であると考えております。
 重点的に取り組むことは、まず、2011年の完全移行まであと2年を切った「地デジ」です。道内の世帯カバー率は96%を超えていますが、今後も中継局の置局によるエリア拡大や共聴施設への支援策などに取り組みます。

また、総務省テレビ受信者支援センター（デジサポ）等の関係機関と連携し、より効果的な広報活動や道民の皆様へのきめ細かな対応を行ってまいります。

次に、道内のデジタル・ディバイド解消です。

各関係機関との連携を引き続き行うとともに、交付金により自治体の情報通信基盤の整備を支援し、WiMAXなどの無線の利点を活用できる最新技術も取り入れて、ブロードバンド・ゼロ地域の解消に取り組めます。

この他にも、ICTによる北海道のくらしの安全や地域の活性化に資するため、「デジタルが拓く北海道の地域づくり」をテーマに、電波利用の促進、電波利用環境の維持、ICTの利活用など各種施策に取り組んでまいりますので、今後も一層のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



7月24日『地デジ』完全移行2年前イベントにて

昭和32年生
 出身地 栃木県
 前任 大臣官房付 兼任
 内閣府政策統括官
 (科学技術政策・イノベーション担当)
 付参事官 (重点分野担当)
 平成21年7月 北海道総合通信局長 (現職)



8月3日『電話のユニバーサルサービスに関する親子見学・説明会』にて

幹部紹介

☆局長 大久保 明

☆新任

(平成21年9月1日現在)

総務部長 太田 清喜	情報通信部長 今田 敏明	無線通信部長 村上 晃	電波監理部長 山口 浩	☆デジタル放送 受信者支援室長/ 総括調整官/ 総合通信相談所長 田向 忠雄 (7月17日付) 前 情報通信国際戦略局 国際協力課課長補佐
☆総務課長 須貝 昭己	☆電気通信事業課長 今井 龍吉	☆企画調整課長 荻谷 照夫	☆電波利用環境課長 内園 善信	
☆企画広報室長 太田 謙二	情報通信振興課長 田口 俊幸	☆航空海上課長 西村 則廣	監視課長 浅見 一浩	
☆財務課長 瀧本 正仁	☆放送課長 大石 通明	☆陸上課長 石森 敬記	調査課長 山下 安雄	
信書便監理官 村山 八郎	☆有線放送課長 日向寺 昭隆			

電話のユニバーサルサービスに関する親子見学・説明会を開催

当局は8月3日、社団法人電気通信事業者協会との共催で、電話のユニバーサルサービスの周知広報活動の一環として、親子見学・説明会を札幌市内において開催しました。

この説明会は、電話のユニバーサルサービス制度についての理解を深めていただくことを目的として、夏休み期間中の小学生とその親を対象に開催したものです。

当日は、生活経済ジャーナリストの高橋伸子氏（情報通信審議会委員）も参加され、制度についての映像による説明会の後、施設の見学会を行いました。

参加者は、北海道警察本部の110番通信指令室やNTT東日本北海道支店の通常見ることのできない地下とう道（電話線の地下道）や災害時に使用する衛星通信移動無線車などを見学しました。

参加者の小学生から「電話番号はどうやって決められているの?」「衛星通信移動無線車の価格はいくら?」など、たくさんの質問も出され、「機会があればまた参加したい」と好評でした。

【ユニバーサルサービス制度とは】

加入電話などの電話サービスを全国どの世帯でも公平で安定的に利用できるよう、ユニバーサルサービス（加入電話、公衆電話、緊急通報（110番、118番、119番））の提供を確保するために必要な費用を電気通信事業者全体で応分に負担する仕組みです。本制度により全国の電話サービスが維持されていて、平成21年2月以降に適用されている1電話番号当たりの単価は月額8円です。

ユニバーサルサービス制度HP

http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/universalservice/index.html

挨拶をされる高橋氏



質問、意見交換コーナー



衛星通信移動無線車の見学、乗車



ユニバーサル制度
マスコットキャラクター
「ユニちゃん」
・遠くの声がしっかり聞き取れるような長い耳
＝ 全国をくまなくカバーする電話の象徴
・機敏で素早い身のこなし
＝ 緊急通報などでの頼もしい対応力の証

「単一」の意味を持つ「uni」にかけて、日本中どこでも均一なサービスが提供できることを表すとともに、みんなが力を合わせて、一つになって、新しい制度を支えていくイメージを表現しています。

ユニバーサルサービス制度についてDVDを用いて説明



道警110番通信指令室を見学



衛星通信移動無線車についての説明



集合住宅等を対象に申請受け付け開始

総務省と社団法人デジタル放送推進協会は、集合住宅等における地上デジタル放送の受信環境整備のための助成金の申請受付を、平成21年8月17日から開始しました。

デジサポ（総務省テレビ受信者支援センター）において、

①集合住宅共聴施設のデジタル化改修又は有線テレビジョン放送施設への置換

②受信障害対策共聴施設の新設又は有線テレビジョン放送施設への置換

に係る助成金の交付申請の受付を行います。

集合住宅を対象にした共聴施設のデジタル化支援は、初めての取組です。

助成制度の概要

ア 申請対象者

集合住宅共聴施設、受信障害対策共聴施設の管理者（共聴組合を含む。）

イ 助成額

①集合住宅共聴施設のデジタル化改修又は有線テレビジョン放送施設への置換

②受信障害対策共聴施設の新設又は有線テレビジョン放送施設への置換

において、地上デジタル放送の視聴に不可欠な施設の設置、改修又は置換等に要する総経費に対して、最大で1/2の額（共聴施設の新設の場合は最大で2/3の額） *世帯当たりの負担が3.5万円を超える場合に限る。

ウ 助成金申請先

道内各デジサポ（道央、道北、道東、道南） <http://www.digisuppo.jp/index.php/infocenter/donation/centerlist/>

エ 受付期間

集合住宅共聴施設 平成21年8月17日 ～ 平成22年1月15日

受信障害対策共聴施設 平成21年8月17日 ～ 平成21年12月28日

<助成制度に関するお問い合わせ先>

総務省テレビ受信者支援センター 助成金相談窓口

電話：0570-093-724（平日9:00～18:00）

担当：デジタル放送受信者支援室
（内線4667）



デジサポのホームページ

平成21年7月24日「地デジ」完全移行まであと2年のイベントを開催

広報イベントを札幌/旭川で開催

当局は、関係団体との共催により、「地デジ」完全移行の2年前となる7月24日に札幌市と旭川市で「地デジ」の広報イベントを開催しました。

札幌市ではJR札幌駅に「地デジ」に関する相談コーナーやデジタル放送とアナログ放送の比較体験コーナーなどを設置しました。また、道内テレビ放送局のアナウンサーと各局キャラクターによる地上デジタル放送のPRや「地デジ」クイズ大会も賑やかに行われ、道行く市民の方々の注目を浴びました。

受信相談コーナーでは、当局職員とデジサポ道央、デジサポ道北の職員が説明、回答を行い、「地デジ」へのご理解をいただきました。

担当：デジタル放送受信者支援室
（内線4667）



イベント会場

JR札幌駅のイベント



各テレビ局アナウンサーによる「地デジ」PR



「地デジ」スタンプラリーコーナー

広報イベントを函館/釧路で開催

当局は、関係団体との共催により、8月10日～16日の7日間、函館開港150周年記念メインイベント「DREAMBOX150」会場内で、また「地デジ」完全移行の700日前となる8月23日に釧路市のイオン釧路昭和ショッピングセンター内で「地デジ」広報イベントを開催しました。

両会場ともに「地デジ」受信相談コーナーやデジタル放送とアナログ放送の比較体験コーナーを設置し、当局職員とデジサポ道南、デジサポ道東の職員が説明、回答を行いました。

また、函館会場は、社団法人デジタル放送推進協会(Dpa)が全国各地で開催している「日本全国“地デジで元気!”」と連携して開催したもので、8月15日は「地デジサポーター」の「テツ and トモ」によるステージイベントも行われ、元気!に「地デジ」の周知を行いました。



函館会場



釧路会場

担当：デジタル放送受信者支援室(内線4667)

南極昭和基地から(その3)

第50次南極地域観測隊 畑中浩二

日本の南極地域観測事業には総務省も参画しており、当局出身の畑中隊員が参加しています。今回は畑中隊員による南極レポートの第3回目をお届けします。

通信室窓から見える南極大陸



今回は昭和基地での生活についてご紹介します。

五十次隊の観測隊員は少数精鋭の28名です。大きく分けて設営系と観測系に分かれており、隊員は各部門の業務を行っています。

設営系の中では機械、環境保全、医療、調理、フィールドアシスタント、通信などがあります。

普段の私の生活をご紹介しますと、7:00起床、7:20朝食、8:00から通信室での業務開始、午前中の通信対応、12:00昼食、午後から送信棟へ行き無線設備の点検・保守、通信室へ戻り通信ワッチ、18:00夕食、夕食後は通信室にて保守関係業務及び雑務をしています。

特にプリザードの時や、旅行隊が遠くへ行くときは、通信ワッチ業務が23時までとなることがあります。

自由な時間はあまりなく、観測隊のための業務で一日が終わります。

このように慌ただしい隊員の生活の中にも、僅かに空いた時間で「生活係」なるものを決め、隊員の生活に潤いを持たせるよう努力しています。

例えば、娯楽スポーツ係はイベントを企画し、農協係はレタスや香草を栽培し、喫茶係は休日にデザートを作成し、漁協係はレクリエーションを兼ねて「釣り大会」の企画をしています。

また、基地での生活で忘れてはいけないのは50年前から変わらない昭和基地周辺の厳しい自然です。

外での作業は天気急変、特に風や気温に十分注意しないと、凍傷になることがあります。マイナス25度以下に冷え込むときは「手足が冷たいというより痛い」状態となり、作業時間と休憩の間隔を短くするなどの注意が必要です。さらに、プリザードが来ると雪が積もるため、外の除雪作業も行います。

このように厳しい自然の中にある昭和基地ですが、周辺ではペンギンやアザラシ、トウゾクカモメなどを見かけることがあり、隊員の楽しみの一つとなっています。



送信棟内部